



博士後期課程で養成する人材像

TMGH修士課程では、「コースワーク」型のカリキュラムを主体とする教育課程を編成しており、グローバルヘルス領域における課題を解決するために必須となる基礎的な知識及び研究能力を修得させてきた。よって、研究（特に国際的な共同研究やプログラム）への参加経験は導入レベルであったが、TMGH博士後期課程では、「リサーチワーク」型のコースデザインにより、さらに高い次元でグローバルヘルスを理論的・実践的に研究・創造する能力を備えた実践的・社会的リーダーの養成をするため、本格的な国際共同研究や国際共同プログラムへの参加が可能となる教育課程を構築する。博士後期課程で養成する人材像は以下のとおりである。

- ① グローバルヘルス全体を俯瞰する能力と知識を有する者
- ② 国際共同研究や国際共同プログラムへの参加経験を有し、当該共同研究等において主導して研究・活動する能力を有する者
- ③ 成果を公表して、グローバルヘルス領域の科学研究を推進する能力を有する者
- ④ 科学的知見に基づき、実践においてもインパクトを与えられる能力を有する者

・グローバルヘルス分野において、研究者として自立して研究活動を行い、高度に専門的な業務に従事するために必要な高度な研究能力と、その基礎となる豊かな学識を備えた人材であり、国際的環境の中で、グローバルヘルス分野における国際共同研究・実践プロジェクトを推進できる能力を有した人材。

・当該領域における実務の推進、研究によるエビデンスの創出又はエビデンスに基づいた意思決定などができる組織リーダーとなる人材が不足している。

具体的には・・・

- ① 国際プロジェクトにおける研究員。国際研究プロジェクトでの研究成果を創出。
例えば、LSHTMが複数の大学と共同で推進するワクチントライアルなど感染症対策介入プロジェクトのプロジェクトマネージャー
- ② 国際プロジェクトにおける高度専門家。国際実践プロジェクトの推進を担当。
例えば、日英が共同で推進する第3国におけるUHC推進介入プロジェクトのプロジェクトマネージャー
- ③ 上記、①、②にかかわるような、国際機関、国内機関（JICA等）、研究所、大学、企業、国際コンサル会社、国際NPO。
以上は、国内のみならず、海外の企業、NPO、大学などを想定。

リーダーに必要な能力

- ① 学際的かつ多国籍な人員で構築されるプロジェクトの遂行に必要な、幅広い知識と高い語学力（英語）によるコミュニケーション能力
- ② 定められた期間及び予算の中で目的を達成するために必要な行動計画を策定し、その内容をプロジェクト構成員に説明、同調させる能力
- ③ 予期しない状況及び不確実性に耐え、当該状況下でプロジェクトに必要な意思決定（取捨選択）をできる能力

修士課程との違い

大きな違いは、博士後期課程修了者は国際共同研究等において高い次元でのグローバルヘルス教育を受けたリーダーであり、修士課程修了者よりも高いレベルを設定している。また、グローバルヘルスに関わる国際的なプロジェクトは、多国籍で多文化な人員により構成されることから、当該分野でのリーダーとしては博士号を取得（もちろん知識レベルとしても博士レベルが必要）していることが重要となる。

グローバルヘルス分野におけるリーダーの育成

